

I 調査概要

1. 調査目的

本市では、平成23（2011）年度に策定した「羽曳野市人権施策基本方針及び基本計画」が計画期間の10年を経過するにあたり、この間の社会情勢や国及び大阪府の施策動向等への対応、また、羽曳野市総合基本計画や各種の個別計画、方針との整合を図りながら、今後の羽曳野市の人権に関する施策の総合的かつ計画的な取り組みを推進するため、令和3（2021）年度末に策定する第2期計画に向けた基礎資料として活用することを目的とし、アンケート調査を実施しました。

2. 調査設計

調査対象 羽曳野市の住民基本台帳から無作為に抽出した市民 2,000人

調査方法 郵送配布・郵送回収

調査期間 令和2（2020）年8月31日（月）～9月30日（水）まで

3. 回収状況

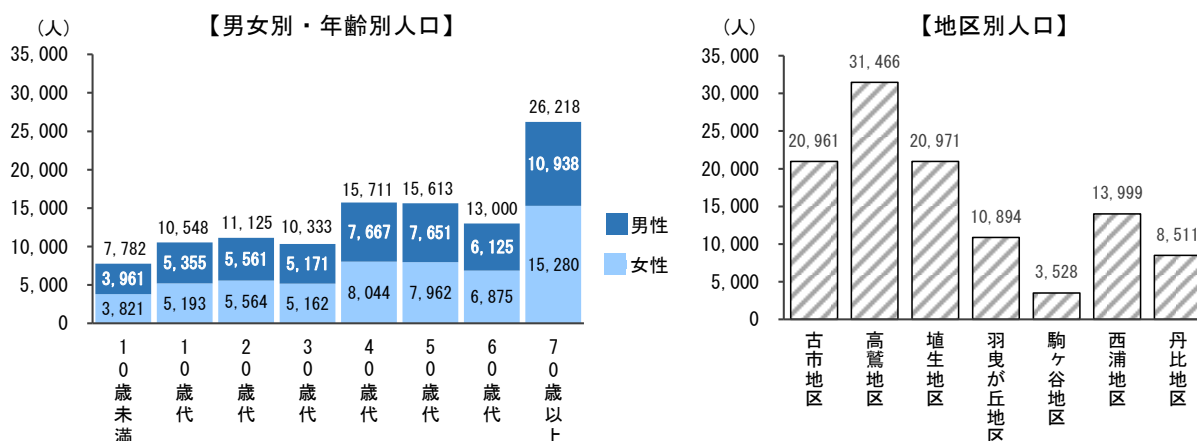
配布数	回収数	無効票数	有効回収数	有効回収率
2,000	954	6	948	47.4%

4. 報告書の見方

- ① 回答は、各質問の回答者数（n）を基数とした百分率（％）で示し、小数点第2位を四捨五入した。（比率の合計が100.0％にならない場合がある。）
- ② 図表上の「MA％」という表記は複数回答（Multiple Answer の略）の、また、「LA％」という表記は制限つき複数回答（Limited Answer の略）の意味である。
- ③ コンピュータ入力のため都合上、図表において、回答選択肢の見出しを簡略化している場合がある。
- ④ 年代別にみた10歳代（n=19）の集計結果は、母数が少ないことから一概に適正な比率とは言えないため、傾向をみるための参考とする。
- ⑤ 「平成23（2011）年度羽曳野市人権に関する市民意識調査結果報告書」をもとに近年の動向を踏まえた集計項目を掲載している。

5. 羽曳野市の人口

（令和2（2020）年9月末時点）



6. 調査の精度

本調査は標本調査（層化無作為抽出）であり、調査結果の誤差の計算は下記の計算式によって計算できる。

《信頼度95%の場合》

$$\text{標本調査} = \pm 2 \times \sqrt{\frac{N-n}{N-1} \times \frac{p(100-p)}{n}}$$

N = 母集団数、n = 有効回答者数（948）、p = 回答比率

ただし、本調査の母集団は無限母集団であるので、

$$\frac{N-n}{N-1} \div 1$$

よって、

$$\text{標本調査} = \pm 2 \times \sqrt{\frac{p(100-p)}{n}} \dots\dots\dots \textcircled{1}$$

①によって計算された総数及び主な属性別の標本誤差は下図のとおりである。

	n \ P (%)	5	10	15	20	25	30	35	40	45	50
		95	90	85	80	75	70	65	60	55	50
総数	948	1.4	1.9	2.3	2.6	2.8	3.0	3.1	3.2	3.2	3.2
〈性別〉											
男性	391	2.2	3.0	3.6	4.0	4.4	4.6	4.8	5.0	5.0	5.1
女性	551	1.9	2.6	3.0	3.4	3.7	3.9	4.1	4.2	4.2	4.3
〈年齢別〉											
10歳代	19	10.0	13.8	16.4	18.4	19.9	21.0	21.9	22.5	22.8	22.9
20歳代	73	5.1	7.0	8.4	9.4	10.1	10.7	11.2	11.5	11.6	11.7
30歳代	89	4.6	6.4	7.6	8.5	9.2	9.7	10.1	10.4	10.5	10.6
40歳代	145	3.6	5.0	5.9	6.6	7.2	7.6	7.9	8.1	8.3	8.3
50歳代	150	3.6	4.9	5.8	6.5	7.1	7.5	7.8	8.0	8.1	8.2
60歳代	162	3.4	4.7	5.6	6.3	6.8	7.2	7.5	7.7	7.8	7.9
70歳以上	302	2.5	3.5	4.1	4.6	5.0	5.3	5.5	5.6	5.7	5.8

※属性別の「無回答」は数表から除いているため、合計は総数と一致しない。

標本誤差の利用法として例示すると、『問5 人権に対する問題意識』（8ページ）において「とても身近に感じる」と回答した人は、総数の15.0%である。そこで表の信頼区間の%欄で15.0%に最も近い「15（または85）」の列と「総数」の行が交差する欄をみると、“2.3”となっている。このことから、「とても身近に感じる」と答える人の母集団値は15.0%±2.3%、すなわち、12.7%から17.3%の間であることが信頼度95%（この種の調査を100回行えば95回はこの範囲に収まるという精度）と推定できる。